

香川県の地震

令和5年(2023年)1月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会^(注)

評価検討会調査結果 令和5年(2023年)2月7日	・・・	2
---------------------------	-----	---

(注)直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

「南海トラフ地震の長期評価(2023年1月1日現在)」について	・・・	3~4
---------------------------------	-----	-----

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

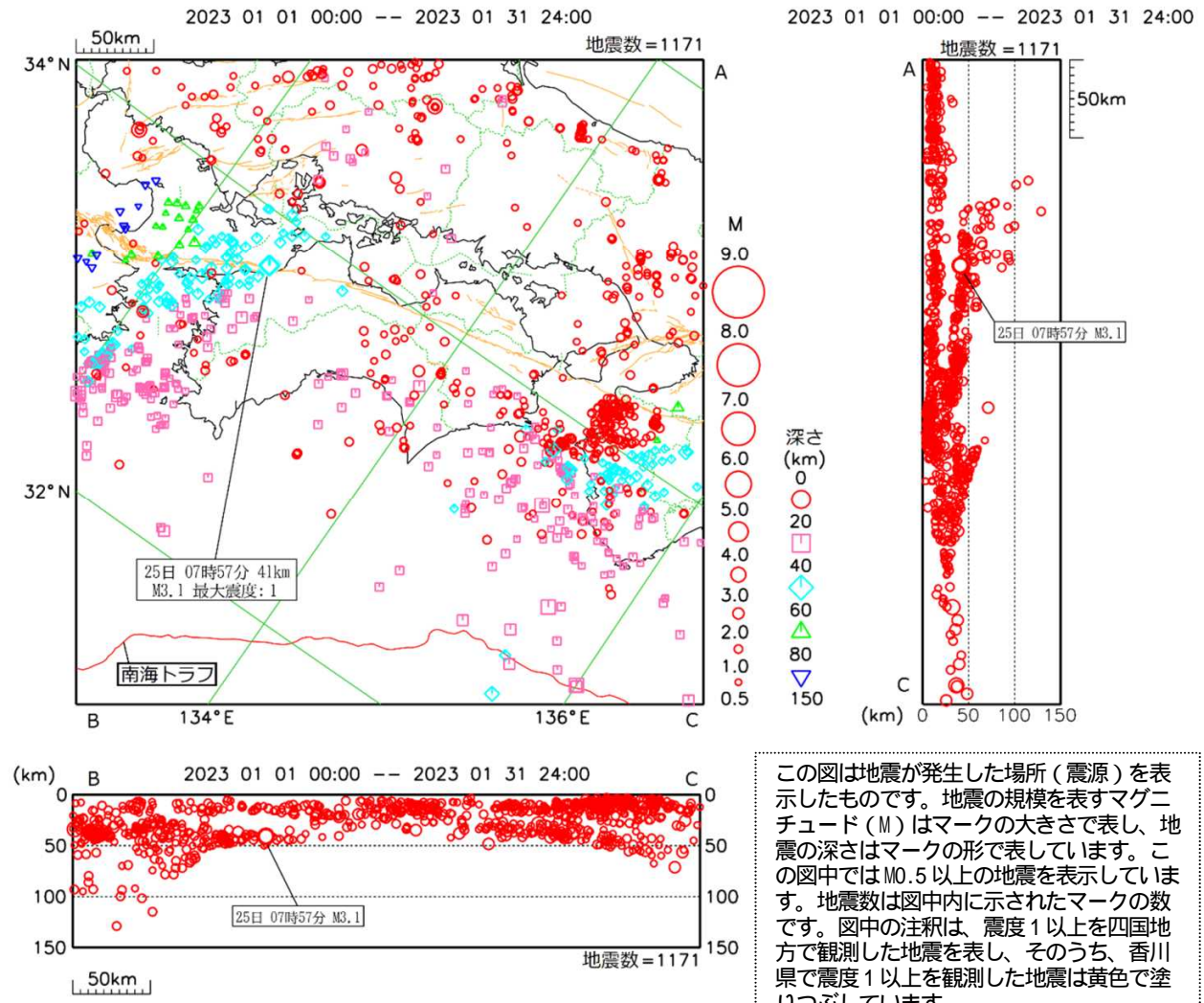
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2023年1月

震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は1回）

四国で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした。

25日07時57分伊予灘の地震（深さ41km、M3.1）により、愛媛県今治市・久万高原町・八幡浜市で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

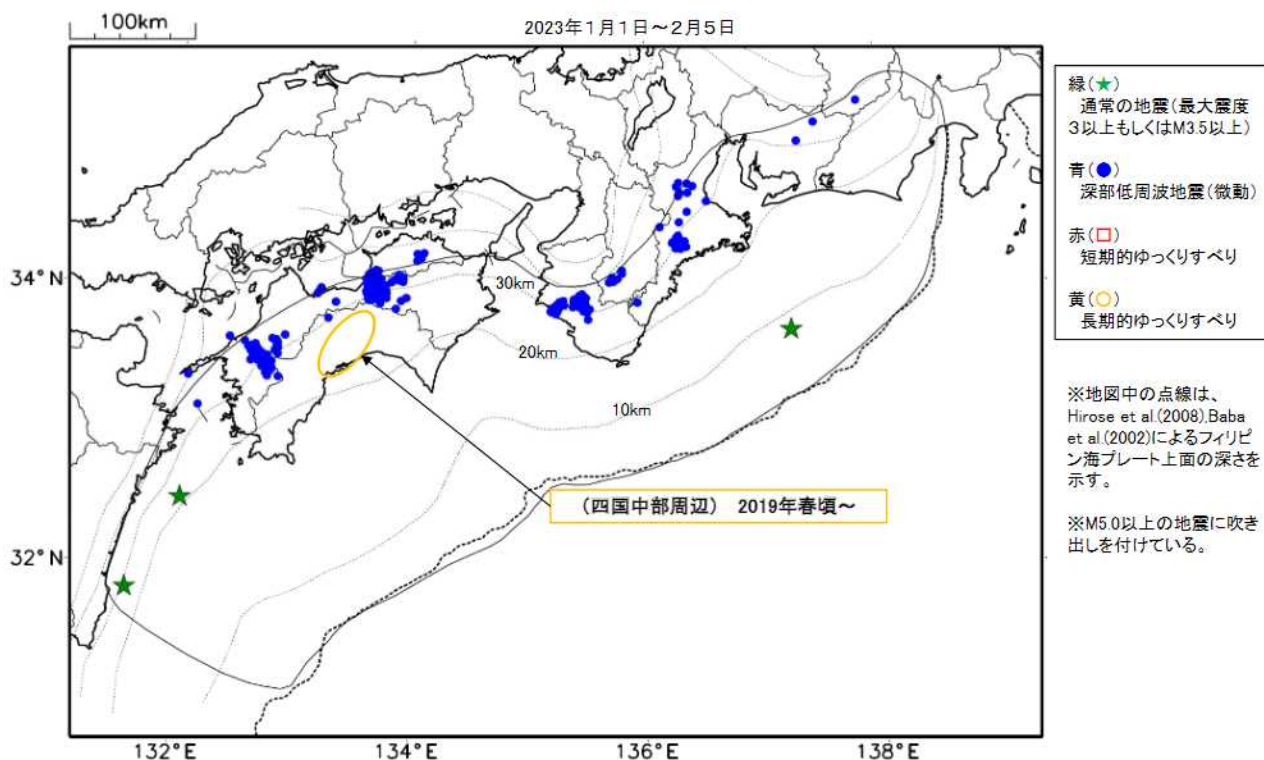
令和5年(2023年)2月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注)南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。
長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青)、短期的ゆっくりすべり(赤)、長期的ゆっくりすべり(黄)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2302/07a/nt20230207.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム> 防災情報> 南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

「南海トラフ地震の長期評価（2023年1月1日現在）」について

長期評価による地震発生確率値の更新について

政府の地震調査研究推進本部 地震調査委員会が令和5年1月13日に、全国の主要活断層について、将来の地震の発生可能性を評価する長期評価の最新の発生確率値（令和5年（2023年）1月1日現在）を公表しました。資料「長期評価による地震発生確率値の更新について（令和5年1月13日）」によると、南海トラフで今後20年以内にマグニチュード8～9クラスの地震が発生する確率が前年の「50～60%」から「60%程度」に引き上げられました。

一方、10年以内では「30%程度」、30年以内では「70～80%」の発生確率で、前年と同じ評価となっています。

表 「長期評価による地震発生確率値の更新について（令和5年1月13日）p3 南海トラフ」を参考に作成

南海トラフ	2022年1月1日時点の評価	2023年1月1日時点の評価
M8～M9クラス	Ⅲ ランク	Ⅲ ランク
平均発生間隔	88.2年	
10年	30%程度	30%程度
20年	50%-60%	60%程度
	(54%-60%)	(55%-61%)
30年	70%-80%	70%-80%
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

- Ⅲランク(高い): 30年以内の地震発生確率が26%以上
- Ⅱランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が3～26%未満
- Ⅰランク: 30年以内の地震発生確率が3%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)

・今回、令和4年（2022年）1月1日時点の評価内容から変化した部分が青く塗られています。

南海トラフ地震の発生確率値に関する留意点

○南海トラフ地震の発生確率値は、南海トラフを含むプレート境界やその付近で起きる地震(海溝型地震)について、基本的に「同じ場所で同じような地震がほぼ定期的に繰り返す」という仮定のもとに、歴史記録や調査研究等から分かった過去の地震活動記録を統計的に処理し、「今後ある一定期間内に地震が発生する可能性」を確率で表現したものです。

○想定した次の南海トラフ地震が起きないかぎり、年数経過とともに地震発生確率値は増加していきます。

○地震発生確率が一般・自治体の方々には分かりにくいこと、または、低く捉えられるおそれがあることから、海溝型地震のリスクを正しく理解していただき、適切な防災・減災行動につながるように、長期評価の広報資料に確率に基づくランク分けを導入しています。海溝型地震については、今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)を「Xランク」と表記しています。

南海トラフ地震への事前の備えについて

南海トラフでは2023年1月1日現在、海溝型地震の30年以内の発生確率が70～80%で、いつ発生してもおかしくない状況です。南海トラフ地震が発生すれば、甚大な被害を及ぼす可能性がありますので、日頃から耐震補強や家具の固定などの対策を講じておくことが重要です。

また、南海トラフ地震は津波を伴うため、津波の影響を受ける地域にお住まいの方は、自宅や学校、職場周辺などで津波に襲われるおそれのある場所をハザードマップや周囲の地形から確認しておく、津波避難場所や避難ビルがどこにあるか、さらに高い場所にある避難場所がどこにあるかを確認しておく、実際に避難場所までの経路をたどり、避難する際の行動を確認しておくなど、事前にできる津波への備えをお願いします。

資料1 長期評価による地震発生確率値の更新について 令和5年1月13日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会
https://www.static.jishin.go.jp/resource/evaluation/long_term_evaluation/updates/prob2023.pdf

資料2 地震調査研究推進本部ホームページ 長期評価結果一覧
https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/lte_summary/

資料3 地震と津波 その監視と防災情報 リーフレット 気象庁 p27
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/jishintsunami/jp/jishintsunami_jp.pdf